

日本シェイクスピア協会会報

Shakespeare News

VOL. XXXIX No. 1

July 1999

会員の皆さんへ.....	喜 志 哲 雄	2
シェイクスピア祭講演（要旨） Women and Boys Playing Shakespeare.....	Juliet Dusinberre	4
論文集を編んで		
<i>Shakespeare and the Japanese Stage</i> の成立をめぐる	笹 山 隆	6
<i>Japanese Studies in Shakespeare and His Contemporaries</i> について.....	川 地 美 子	8
記念論文集の刊行について.....	高 橋 康 也	11
教室のシェイクスピア		
「ことば、ことば、ことば」.....	上 野 美 子	13
十年一日・・・.....	小 沢 博	14
もっと思想史を.....	佐 野 隆 弥	15
もったりしすぎず、いじりすぎず.....	野 田 学	16
映画 “Shakespeare in Love” に寄せて.....	村 上 健	18
文献解題：初期近代英文学とナショナリズムの問題 「ブリテン」の位置付けを巡って.....	廣 田 篤 彦	21
* * *		
NOTICE BOARD.....		25

会員の皆さんへ

喜 志 哲 雄

本年4月から二年間、日本シェイクスピア協会会長を勤めることになりました。1997年3月末に任期満了で委員を退いた時には、協会の運営に関わる日がまた来るなどとは全く思いませんでした。そんなわけで、少からず戸惑いましたが、幸い、1991年に東京で開かれた国際シェイクスピア学会の準備のためにともに苦労し、気心の知れている金子雄司さんが、再び総務・事務局長を引受けて下さったのを始め、揃って有能な方々が委員をお勤め下さいますので、たとえ会長は非力でも協会は何とか運営して行けるのではないかと思います。会員の皆さんの御協力、御支援を心からお願ひ致します。

会報「シェイクスピア・ニュース」の編集には私自身が当ることになりました。会員がふえ、いわゆる国際化が進んだ結果、協会の仕事は往時とは比べものにならないほど複雑化しており、個々の委員の負担も増大しております。会長も何かの実務を担当すべきだと思いましたが、「ニュース」は協会と個々の会員とをつなぐ重要な刊行物ですから、会長が名実ともに編集責任者になるのがよからうと考えました。しかし、私ひとりではこの仕事はこなせません。そこで加藤行夫さんに協力をお願いしたところ、快くお引受け頂きました。言うまでもなく加藤さんはコンピューターに精通した方で、これまでも「シェイクスピア・スタディズ」や協会の論文集のカメラ・レディ・コピーの作成を担当して来られました。これからは「ニュース」について同じ仕事をして頂きます。皆さんが手にしておられるこの号の企画は加藤さんと私とが立てましたが、版下はすべて加藤さんの手を煩わしたものです。これによって経費が大幅に節約できますので、「ニュース」は学会特集号を含めて一年に三回発行したいと考えております。また、「ニュース」を会員にとって身近なものとするため、投稿を歓迎します。「ニュース」の内容はもとより、協会の運営全般についても何なりと御意見をお寄せ下さい。但し長さは400字程度に限らせて頂きます。また、会員の方々が現在どん

なことを研究しておられるか、どんなことに興味がおありかといった問題を扱った投稿「研究ノート」といったコラムになると思いますが、そちらの投稿もふるってお寄せ下さい。「ニュース」には私自身も毎号寄稿し、協会の現状をありのままに述べたり、協会が抱えている問題について率直な意見を開陳したりするつもりです。

もうひとつお知らせせねばならないのは、協会の公式ホームページの開設です。これについても加藤さんに中心になって準備して頂き、金子さんと安達まみさんに御協力頂きました。この号がお手元に届く頃には既に利用できるようになっている筈です。「ニュース」のような活字の媒体にはどうしても限界がありますが、ホームページなら頻繁に情報を更新できますし、印刷物には盛込めないくさんの情報を提供することもできます。ホームページを開設するのなら個々の会員が意見を書込むことができるようにせよという御要望が当然あると思いますが、ホームページの管理には厄介な問題も色々ありますので、当分の間は専ら協会の広報活動の手段として利用させて頂きます。

加藤行夫さんが「シェイクスピア・ニュース」のカメラ・レディ・コピーを作成して下さることは既に申しましたが、協会では主な刊行物のすべてにデスクトップ・パブリッシング(DTP)を導入することにしました。今後「シェイクスピア・スタディズ」については高田茂樹さん、学会資料については河合祥一郎さんが、この仕事を担当して下さい。そしてやはりコンピューターの権威である金子雄司さんが全体を統括して下さいになっています。仕事の分担を明瞭にするため、この四人の方にはあらたに設けた「出版担当」の委員をも兼ねて頂きます。なおDTP導入の結果、「スタディズ」刊行経費はほぼ200万円が既に節約されておりますが、今後は更に経費の削減が全体にわたって図られることとなります。

「スタディズ」については、刊行の遅れがずっと問題になっておりましたが、前委員の

上野美子さんを始めとする方々が努力して下さったおかげで、遅れはかなり取戻せました。私の会長としての任期の間に三号を発行すると、遅れは完全に解消されます。何とかそうしたいと思います。そうなるかどうかはひとえに会員の皆さん次第です。掲載するに値する論文が揃いさえすれば、遅れを解消することは何でもないのです。

「スタディズ」刊行と並ぶ協会の重要な学問的活動は、言うまでもなく秋の学会の開催ですが、これについても見直しの必要があるのではないかと、私は考えております。具体的に言うと、セミナーだけではなく、かつてのパネル・ディスカッションのようなものを復活させてはどうかということです。セミナーとは本来は正式に登録したメンバーが事前に他のメンバーの研究成果に目を通し、十分な準備をした上で直接に意見を交換する場であるべきですが、現在のセミナーの多くは傍聴者に配慮せざるをえないかたちになっているようです。セミナーをあるべきかたちに戻し、セミナーに登録していない会員のためには別のプログラムを用意すべきだというのが、私の考えです。これについては小澤博さんを始めとする学会担当の委員の方々に御検討をお願いしておりますが、会員の皆さんのお考えも伺いたいと思います。

協会が初めて刊行する英文の記念論文集は、予想外の事態のせいで未だに出版に至っておりませんが、おそらく今年秋の学会までには出来上ると思われます。日本シェイクスピア協会は、国際化という言葉がまだ流行語になってはいなかった頃から学問の国際化を心がけて活動して来ました。第一回の学会が開かれた 1962 年には、私はまだ大学院学生でしたが、その頃からさまざまなかたちでこの団体の仕事のお手伝いをして参りました。振り返ってみると、私の半生は協会とともにあったとさえ言えます。それを私は誇りに思います。なぜなら、試行錯誤や紆余曲折はあったにせよ、協会は常にひとつの方向を目指して進んで来たからです。英文論文集の刊行や国際シェイクスピア学会の主催は、協会にとっては当然の仕事であったのだと、今更のように感じます。

この 4 月、私はアメリカ・シェイクスピア

協会の年次大会に出席するため、サンフランシスコへ行って来ました。発足年だけを基準にするなら、この学会は日本シェイクスピア協会よりも若いのですが、私が目を見張ったのは、この学会がアメリカの学会として活動を始めながらいつの間にも国際学会に変わってしまったことでした。アメリカやカナダはもとより、イギリス、フランス、ドイツ、日本、スペイン、イスラエル、韓国などの研究者が正規の会員として出席し、研究発表を行ったりセミナーに参加したりしているのです。学問のための組織はこうでなければなりません。私がサンフランシスコへ行ったのは、2001 年にスペインで開かれる国際シェイクスピア学会の準備委員会がその間に開かれたからでしたが、この国際学会にも協会会員の皆さんが積極的に参加してほしいと、私は考えております。たまたま同じ 2001 年に協会は創立 40 周年を迎えますので、恒例に従ってしかるべき外国人学者を招聘したいと思っております。「渉外」という委員をあらたにおき、楠明子さんに就任をお願いしたのは、このことを念頭においているからです。

最後にいささか不躰なことを敢えて申し上げます。それは、会員の皆さんはどうか会費をきちんと払って下さいということです。会費の督促のために事務局員が使う時間や費用は、もっと有意義な、もっと納得の行くことのために使えたに違いない時間や費用なのです。更に言うなら、協会は委員や事務局員の奉仕的な活動によって成立っております。たとえば、東京で委員会が開かれる時、東京周辺以外の場所に住んでいる委員には新幹線の実費が出ますが（近頃は新幹線の回数券を差上げることにしています）、宿泊費は出ません。要するに、私どもはいわゆる持出しで働いているのです。これが不満だと言っているわけではありません。今や国際的にも高い評価を受けている学会のために働くことに、私どもは誇りと喜びを感じております。ただ会員の皆さんには、この協会が事務局員や委員が時間や労力を犠牲にすることによって成立しているのだということを、時々思い出してほしいのです。

10 月に盛岡でお目にかかるのを楽しみにしております。

NOTICE BOARD

3月22日 日学士会館本館 311号室において臨時委員会開催。一身上の理由で辞任を申し出た上野美子委員、玉泉八洲男委員の辞任を承認した。引き続き、新旧委員会の引継会と懇親パーティーを開催。

第1回定例委員会。4月17日午前10時より明治学院大学本館92会議室で開催。議事内容は次の通り。議案：1) 会長推薦の件、2) 委員繰り上げ当選の件、3) 委員業務分担および監事の件、4) 98年度事業報告、5) 98年度決算案、6) 99年度予算案、7) 99年度事業計画案、8) 賛助会員制度の件。協議事項：委員選挙規定一部見直しについて。報告事項：各担当部門よりの報告。審議の結果次の事項が決定された。喜志哲雄委員を今期会長として総会に推薦。上野、玉泉両委員の辞任に伴い、98年12月の委員選挙の次点、次次点であった浜名恵美氏、南隆大氏を繰り上げ当選とすることとした。任期は辞任した委員の残存任期。従って、浜名氏は2期4年、南氏は1期2年と決定。

今年度委員業務分担及び監事は次の通り。

(敬称略)

会長：喜志哲雄

総務：安達まみ(広報) 金子雄司(事務局長、財務)

行事：安達まみ、新谷忠彦、浜名恵美

学会：小沢 博、河合祥一郎、楠 明子、南隆太、山田由美子

Shakespeare Studies：荒木正純、高田茂樹、村上淑郎、山田耕士

Shakespeare News：加藤行夫、喜志哲雄

渉外：楠 明子

出版：加藤行夫、金子雄司、河合祥一郎、高田茂樹

国際交流資金運用委員：安達まみ、新谷忠彦、金子雄司、喜志哲雄、楠 明子

監事：上坪正徳、栗原 裕

今年度より、賛助会員制度を設けることを総会に提案することが決定された。協会の活動を支援してくれる法人組織を対象とする。

会費年額 20,000 円以上。賛助会員は協会の定期刊行物などに広告を掲載することができる(広告料別途)

今年度より協会の定期刊行物をすべてデスクトップ・パブリッシングで行うこととし、新たに出版担当部門を設けた。

インターネット上に公式ホームページを開設することが決定された。

今年度より *Shakespeare News* を年3回発行することに決定した。

99年度総会。4月22日正午より明治学院大学本館92会議室において開催。議長に前川正子氏を選出した後、以下の議題が審議、承認された。1) 会長承認の件、2) 98年度事業報告、3) 98年度決算報告、4) 99年度予算案、5) 99年度事業計画、6) 賛助会員制度。報告事項：99年度委員業務分担および監事

シェイクスピア祭。日本英文学会との共催で、明治学院大学本館10階大会議室で午後1時から開催。喜志哲雄会長の開会の辞に続き、次の講演、演奏が行われた。

講演：Dr. Juliet Dusinberre (The M. C. Bradbrook Fellow in English, Girton College, Cambridge University) による "Women and Boys Playing Shakespeare: with special reference to *As You Like It*, *Antony and Cleopatra* and *The Two Gentlemen of Verona*" 司会：東京大学教授・高田康成氏。リユート演奏：佐々木政嗣氏。曲目はS. L. ヴァイス、J. S. バッハなど。司会：明治学院大学教授・新谷忠彦氏。閉会の辞：日本英文学会理事・高橋和久氏。午後4時20分終了。観客数約100人。

第18期日本学術会議登録申請。5月25日に日本学術会議第18期会員の推薦のための学術研究団体登録申請をした。

第38回シェイクスピア学会。既報の通り、10月23日(土)、24日(日)の2日間をわたり、岩手大学教育学部で開催予定。

会員名簿 99年度版を9月上旬に刊行の予定。

発刊が遅れている35周年記念論文集 *Hot Qwestrists after the English Renaissance: Essays on Shakespeare and His Contemporaries* が今秋はじめてAMS Pressから刊行される。

4月18日 NHK BS2 番組「地球に好奇心」

シリーズのひとつとして「シェイクスピアの迷宮 コンピュータが挑む劇作家の謎」が放映された。制作段階で協会が協力。特に加藤行夫委員が助言をした。

訂正および追加。前号 (Vol. XXXVIII, No.2) Notice Board の、「1999年3月末日をもって任を退くことになった」と記された委員名より「大橋洋一」を削除。なお、「12月23日の定例委員会で大橋洋一委員の委員辞職願いが受理された」との記載に、「同委員の99年3月31日までの残存任期については欠員のままとすることに決定」を追加。

協会の公式ホームページ開設。学術情報センターの Academic Society Home Village に日本シェイクスピア協会の公式ホームページが登録された。会員向けの案内・通知を主な目的とするが、協会の活動を広く国内外に報ずるために、行事(シェイクスピア祭、講演)や学会の記録、*Shakespeare Studies* のバックナンバー目次、*Shakespeare News* 抜粋、協会出版物一覧などのほか、資料編として、協会発足時以来の年譜・沿革、過去の学会プログラムなども掲載している。URL は “<http://www.soc.nacsis.ac.jp/sh/>”。



協会ホームページの表紙

1998 年度会計報告および 1999 年度予算
(1999.3.31)

収入の部	(1998 年度)	(1999 年度)
繰越	3,938,344	4,650,404
会費	6,706,540	6,400,000
預金利息	8,389	7,000
同上(基金分)	834	500
雑収入 (会誌売上を含む)	185,463	0
	10,839,570	11,057,904

支出の部		
<i>Shakespeare Studies</i>	585,790	600,000
<i>Shakespeare News</i>	370,124	400,000
シェイクスピア祭	154,340	170,000
シェイクスピア学会	637,323	800,000
委員会費	119,716	100,000
事務局経費	691,009	700,000
事務局人件費	1,380,000	1,450,000
一般印刷費	66,150	100,000
通信郵送費	906,120	900,000
交通費	685,920	700,000
研究業績リスト	0	0
I S A 会費	10,000	0
委員選挙費用	359,374	300,000
消耗品	199,040	200,000
予備費	24,260	150,000
(支出合計)	(6,189,166)	(6,570,000)
繰越	4,650,404	4,487,904
	10,839,570	11,057,904

お知らせ

今年度のシェイクスピア学会は、岩手大学生協が一括して宿泊関係の斡旋をします。後日プログラムとあわせて申し込み用紙をお送りしますので、ご利用下さい。

会員の皆様の「ご住所」や「ご所属」などに変更がありました場合は、間違いがないように、お電話ではなく、文書（手紙、ハガキ、Fax）にて事務局にご一報くださいますようお願い申し上げます。

日本シェイクスピア協会は、毎週月曜日と金曜日に事務局を開局いたします。電話受付時間は正午から午後4時とさせていただきます。なおファックスは曜日を問わず終日受け付けております。

事務局電話・Fax 番号：03-3292-1050



AFTERTHOUGHT

すでに *Shakespeare Studies* で実現していた DTP (desktop publishing) をこの号から開始した。正確には、版下 (camera-ready copy) を作成するところまで自前で行なって、あとは印刷所に出すのだが、これで経費は大幅に削減できる。何よりのメリットは、最終的な誌面が完成する直前まで原稿に手を入れられるという点だ。執筆者にはできるだけフロッピーか電子メールでデータを送っていただき、著者校正や編集者同士の確認についても、レイアウト情報などをそのままファイル化できる PDF (Portable Document Format) を利用して、やはり電子メールのやりとりで進めた。これによって、入稿から発行までの時間が劇的に短縮され、年3回の発行も可能になる。なるべく従来の体裁を踏襲したが、表紙をつけるなど、これを機に刷新した部分もある。最先端のコンピュータ技術を駆使した次第だが、意外にも作業は楽しい手作りの感覚だった。さて、出来映えはどうだろう。(cato)

SHAKESPEARE NEWS
VOL. XXXIX, No. 1

平成 11 年 7 月 31 日発行

編集 日本シェイクスピア協会
発行人 喜 志 哲 雄
発行所 東京都千代田区神田駿河台 2-9
日本シェイクスピア協会
(振替口座 東京 4-33142)
印刷所 株式会社佐藤印刷